平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0570909416		
法人名	有限会社 くおん （A棟）		
事業所名	グループホームくおん		
所在地	秋田県八幡平字堰の下108番地		
自己評価作成日	平成28年9月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成28年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

力をいれている点
・外気浴、散歩、地域での行事、イベントなど外へ出る機会を多くしている。
・レクや体操、歌、日記などで認知症の対応をしている。
アピールしたい点
・職員の資格取得に向けての支援。
・近くでの研修会参加を多くしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

まさに八幡平の大自然に包まれた山里。広大な敷地内が安全で自然を満喫できる絶好の散歩コース。「○月の目標」と題した、利用者家族の些細な思いや要望を全利用者個々に簡潔に記入した様式を導入しており、これが利用者家族、そして私たちスタッフの目標とのこと。運営推進会議メンバーより「職員の話も聞きたい」との要望があり、それ以後スタッフが交代で参加している。日常業務の中でも、スタッフは常に「待ったなしで即言ってくれる」とのこと。最低でも年に2回家族会を開催しており、グループホームの理解促進につながっている。アットホームでいつも家族を気持ちよく迎えており、利用者への思いやりや気遣いが家族の安心感につながっている。あえて地域を散歩し、「話して聞かすのではなく、目で見て、触れ合いつながることが散歩である。触れ合うことが認知症に対する誤解をなくし、理解促進につながる。」という、代表者の言葉が印象的である。管理者の専門知識や技術に対する探求心の旺盛さがスタッフの拠り所となり、その相乗効果がこのホームの特徴と感じた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆとり、いたわり、思いやり」の理念をスタッフ会議等で代表者から話され、スタッフも実践につなげています。	開所より13年が経過したが、当初の理念を現在もホームの拠り所として業務に取り組んでいる。管理者の専門知識や技術に対する探求心の旺盛さがスタッフの拠り所となり、その相乗効果がこのホームの特徴と感じた。	利用者の重度化が進む現状の中、今後も事業所の方針を共有した支援を継続するよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、学校の行事に参加したり、地域の運動会等を見学したり、又、園児や中学生がホームの方へ来てくれたりと交流を深めています。	農家が多く、野菜等の差し入れが頻繁で、当初から変わらぬ食事代が自慢。ホームの目と鼻の先が地域の広場であり、ゲートボールや運動会等々年間を通して様々な催しの場となっている。幼児が作成したかわいい作品がところ狭しとホームのあちこちに飾られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	入居者を第一に考えながら、地域に開放し、関わり方等を相談対応、そして研修、ボランティアの見学も受け入れてます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での結果を全職員に報告が有り、その意見を取り入れています。	地域運営推進会議と命名し、大枠は決まっているもののメンバーをあえて固定せず、出来るだけ多くの関係者が参加するよう、都度参加して欲しい方に案内している。法的な問題を抱えるケースには、市委託の弁護士を積極的に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者が直接連絡を取り、情報交換をしています。地域運営推進会議に来てもらったり、連絡会議で話合っています。	運営推進会議には、包括支援センターや高齢者福祉班等都度関係する職員を交代で派遣してくれていることが、良好な市との関係構築に有効と感じた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	休憩室に資料が置いてあり、会議でも常に話し合いも行われています。	<身体拘束の排除の理念及び方針>をパンフレットと一対にしている。設立より13年が経過するが、今まで一切身体拘束はなく、センサーはあるが作動させていない。夜間の玄関施錠については、一般家庭同様、むしろ利用者の安全確保ととらえる方が自然であることを伝えた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	テレビのニュースや新聞等で虐待の記事が載ると、毎日の申し送りで話し合い、注意、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉は時々耳にしますが、中々詳しく学ぶ機会がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャーが対応し、説明をしていますが十分な説明とはいかず、家族会や、来訪の折に都度説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回家族会が設けられ、意見交換されたり、家族の面会時に意見を伺ったり、玄関に箱を置いています。	アットホームでいつも家族を気持ちよく迎えており、利用者への思いやりや気遣いが家族の安心感につながっている。設立当初より家族会が存在し、最低でも年に2回開催しており、グループホームの理解促進につながっている。地域の高齢化のため、参加者が減少傾向にある。	重要事項説明書の苦情相談機関に「秋田県福祉サービス相談支援センター(秋田県運営適正化委員会)」を追加するよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や数回の親睦会を設けて、交流が図られています。	スタッフの表情が明るく、ストレスは互いに吐き出し家庭へ持ち込まないとのこと。代表者が意識して明るく振る舞い、笑いを醸し出していた。運営推進会議メンバーより「職員の話も聞きたい」との要望があり、それ以後スタッフが交代で参加している。日常業務の中でも、スタッフは常に「待ったなしで即言ってくれる」とのこと。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や介護に関する資格の有る人には、手当が図られています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が取り入れられています。近場の研修には参加するように進められています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で、他施設と交流し、情報を聞いたり、参考にしたりしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャー、家族、本人から生活歴を聞き、今迄の生活状況や一日の流れを把握して、馴染んでいけるように、工夫、努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎日のカンファレンスで話し合いを行っています。入居前会う機会を設け、話し合う場を設けています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者と同じ立場と考え、共に歩む意識を持つようにしています。特に毎日のレク時、入居者と情報を共にし実践しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時に意見を聞き、一緒に介護する関係を築けるようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所や知り合いの方の面会もあり、利用者の行きたい所へも行くようにしています。	あえて地域を散歩し、「話して聞かすのではなく、目で見て、触れ合い、つながることが散歩である。触れ合うことが認知症に対する誤解をなくし、理解促進につながる。」という、代表者の言葉が印象的である。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで軽い運動や歌を歌ったり、若い時の話をする場面を作ったりしています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	代表者やケアマネージャーが対応してくれています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理をさせず、本人のペースに合わせながら、過ごしています。	「○月の目標」と題した、利用者家族の些細な思いや要望を全利用者個々に簡潔に記入した様式を導入しており、お茶の時間にさりげなく本人から言葉や仕草で聞き取り感じたことを一覧にしている。「これが利用者家族、そして私たちスタッフの目標で、実現させるよう取り組むんでいます。」とのこと。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の情報を得たり、入所前の情報を元に、利用者一人ひとりの把握に努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を尊重し、本人に確認しながら、今できる事をやってもらえるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議・ユニット会議にてカンファレンスを行い、利用者に沿った介護計画を作成しています。	「利用者の様子など注意事項」と題した個別チェック表を棟毎に活用し、夜間・食事・日中・入浴・排泄等の項目に都度チェックしている。このチェックを基に、毎月の「サービス提供・評価・カンファレンス」により介護計画を作成している。あえてケース担当制ではなく、全スタッフで議論することを基本としている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子を見ながら記録し、スタッフ同士、情報を共有出来るようにしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の得意とする事、趣味、楽しみを見つけ、生活に張り合いを持って頂くようにしています。サンスティック、コモッセ、運動公園等へドライブを兼ねて行く機会を設けています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診、薬剤師との連携を図りながら努めています。訪問歯科の利用や薬局から薬の配達もしてもらっています。	協力医師・訪問看護師・歯科医・薬剤師が訪問する関係を構築しており、本人や家族が医療スタッフから直接説明を受けることをホームの方針としている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアマネージャーに伝えて対応し、指示を仰いでいます。末期がんの入居者への訪問看護を利用しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長が対応してくれています。地域連携室の看護師に相談しています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は年々重要となり、取組みの意識は高くなっていますが、私達スタッフがまだ勉強不足の面があります。	前回の評価結果を踏まえ、「医療連携体制指針」を新たに整備し、全家族に説明し同意を得ている。実際に事例が発生した場合には、スタッフも立ち合いのもと、医師や訪問看護師等より詳細な説明を受け、ホームではなく医療機関と本人・家族の同意を基本としている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に講習、訓練を行っています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も実施しており、関係機関との連絡体制も図られています。地域との協力体制は少し難しく感じます。	前回の評価結果を踏まえ、連絡網による模擬駆けつけ訓練を実施している。高齢化が著しい地域であり、災害時は一人暮らしの高齢者の安否確認が民生委員等にとっては最優先の現状にある。運営推進会議等で今まで議論してきたが、地域の著しい高齢化により、ホーム災害時の地域住民の役割を明確にすることは困難な状況にある。むしろ集落の防災訓練にホームが参加し、協力している。	鹿角市指定避難所として、その役割を今後も自覚し、地域のために貢献するよう期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設長から常に言葉づかいに注意するように指導されています。トイレや入浴時のプライバシーにも気を付けています。	帰宅願望による不穏が激しい利用者、実は家族が立て続けに亡くなり、仏壇を心配するあまりの行動であることを察知。早速仏壇を居室に持ち込むことで、不穏が解消されたとのこと。「信頼関係をまずは築くこと」の大切さを実践している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話で聞きだしたり、本人の気分に合わせ無理強いしないようにしています。移動販売にてパンを選んでもらっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を尊重しながら、生活リズムを大切にしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き支援しています。洋服も一緒に選んだり、美容院の利用も行っています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いのできる利用者には、一緒に食事の準備や食器拭き等をして頂いたり、季節の物を食材に入れたりと会話を楽しみながら食事が出来るように気をつけています。	天気次第で外で食事！「今日は今日のお茶の時間」を合言葉に、即実行している。日常生活における移乗動作が身体能力維持に欠かせないとのこと。盛り付け・切る・皮むき・米とぎ等は、それこそ昔取った杵柄。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表があり、栄養の偏りが無いように工夫されており、個人の状態を見ながら刻み食にしたりしています。又、個人別に摂取量を記入し対応しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、入れ歯の手入れ、うがい等、声掛け見守りしています。又、出血や炎症のチェック、できない利用者には、スタッフが対応しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛け、リハパン等にしないよう時間を見てトイレ誘導したりと、スタッフ同士話し合い、自立に向けて努力しています。	入居時よりあえて綿パンツを導入し、チェックによるデータを分析し、誘導につなげ、その人なりの排泄の自立に積極的に取り組んでいる。自宅より持ち込んだ夜間使用のポータブルトイレを居室内の失禁した場所へ移動することで、失禁が無くなった事例も確認できた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から野菜を多めにとって頂き、水分補給の声掛け、個人に合わせながら運動（特に腹筋運動）して頂いてます。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日のバイタルチェック、健康状態を確認し、本人の意向に合わせ、入浴の声掛け、着替えの準備等促しています。	介護度の増加に伴い、毎日入浴を実施しており、通院等に配慮しながらも最低週に2回は入浴できるよう配慮している。開設当初の家庭用浴室であり、介助の方法を様々工夫しながら、対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を理解し、安心出来る場面、場所で休んで頂いたり、睡眠パターンを把握し、気持ちよく眠れるように努めています。医師と相談し、眠剤を服薬して頂くこともあります。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ同士、薬の処方箋を見て把握し、確認しながら理解に努めています。受診時には状況を報告しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意とする事、したい事をして頂き、一人ひとり役割を持って、生活のリズムをつけてもらえるよう支援しています。又、好きな食べ物を提供したり、過ごしております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気温に配慮しながら、散歩や外気浴を行い、外でおやつを食べる等しています。又、季節に合わせドライブも行っています。家族の協力をお願いする時もあります。	まさに八幡平の大自然に包まれた山里。広大な敷地内が安全で自然を満喫できる絶好の散歩コース。天気次第で即出かけれる態勢を重要視している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に2回パン屋さんがホームに来ています。利用者から好きなパンを選んで頂き、預り金の中から支払い、おつりを計算し受け取って頂いています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話して頂いています。手紙や年賀状等、本人へ渡し、返事をするように声掛けしています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が玄関やリビングに飾られており、常に日が差し込むようにしています。トイレ、浴室の扉にはわかるように表示してますが、生活感には少し無理があるかもしれません。	利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）は一切感じられず、清潔で明るい。広々とした空間が不安要素につながるかとの懸念もあったが、八幡平の広々とした自宅で生活した経歴から、広い空間が馴染むのではと考えている。利用者の重度化に伴い、トイレ入口が手狭に感じており、課題とのこと。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファー、テーブルを置き、小上がりには畳の空間があり、それぞれ自由に過ごして頂いています。リビングでは本人の席があり、安心できる場所になっています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品、家族の写真、仏壇等を居室に置いてもらい、安心して過ごして頂けるようにしています。	利用者個々の身体状況や好みに配慮し、畳部屋や洋室を設置している。どの部屋も明るく広く、窓からは雄大な自然と住民の営みが見え、自然の移り変わりを満喫できる。自宅で使用していたポータブルトイレ、仏壇等が持参されていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の勘違い等で混乱しないよう声掛けし、トイレの扉には大きく表示しており、各居室には本人の名前のプレートをつけています。		